

## シラバス参照

開講年度	2017
講義コード	032006JA
開講セメスター	夏セッション1
講義名・クラス名	教育と社会JA
担当教員	本間 政雄
備考	<p>注意: 夏セッション1は7月30日(日曜日)から8月3日(木曜日)に開講されます。7月30日は日曜日ですが授業が実施されますのでご注意下さい。</p> <p>Note: The period for Summer Session I this academic year is July 30 – August 3, Sunday – Thursday. Please note that lectures will be also held on Sunday, July 30th.</p> <p>セッション期間の科目は、卒業予定日を含む最終セメスターでは履修できません。</p> <p>No session courses may be registered during a student's semester of scheduled graduation.</p>

講義分野	教育、社会学 当フィールドの設定は、関心のある分野に該当する科目を検索、閲覧するものです。興味のある分野を示しているだけであって、卒業に必要な単位区分とは関係がありません。単位区分については、ハンドブックを参照の上、履修するようにしてください。
履修の目安	最新の「文部科学白書」(同省のHPから閲覧可能)の教育関係部分を通読しておくこと。憲法、教育基本法、学校教育法を通読しておくこと。論理的な文章を書く能力が求められます。
授業のねらい	1)一国の教育制度、教育のあり方は、その国の社会、文化、歴史の所産であり、同時にその国の社会のあり方に大きな影響を与えます。わが国では、江戸期にかなりの普及を見た寺子屋や藩校を基盤に、明治政府が「邑に不学の戸なく」との方針の下に、初等普通教育の普及に全力を注いできました。その結果、明治維新からわずか30年後の19世紀末には、国民皆教育をほぼ実現するという未曾有の成果を挙げることができました。 2)こうした初等教育の急速かつ広範な普及は、「富国強兵」という明治政府の近代化路線を担う人材を育成したという点で、わが国が欧米列強と肩を並べる強国に発展する上で決定的な役割を果たしたといふことができます。 3)わが国は、太平洋戦争により徹底的に破壊され国土は荒廃の極に達しました。しかし、敗戦後わずか20年で経済復興と高度経済成長を果たし、新幹線の開業と東京オリンピックの開催(1964年)、大阪万博の開催(1970年)を経て、1980年代には世界第二位のGDP大国となり、「Japan as No. 1」(Ezra Vogel/ハーバード大学教授)と賞賛されるまでの奇跡の経済発展を遂げました。 4)こうした戦後の経済復興・発展を支えた重要な要因の一つが、米国の指導による戦前の「複線型」から「単線型」の教育制度への転換であり、その結果としての後期中等(高校)教育の普及、次いで高等教育の普及による高度人材の育成でした。 5)しかし、今日の教育は、学力や学修意欲の低下、いじめや校内暴力、「モンスター・ペアンツ」などに見られるようなモラルの崩壊などの問題や、ICTの活用、グローバル人材の育成、財政難など多くの課題にも直面しています。 6)戦後、中央教育審議会や臨時教育審議会などにより、こうした課題を取り上げられ、改革案が提起されてきましたが、保守的な教育界の反対などに遭って改革は進まない状況です。 7)このように、わが国の教育制度、教育のあり方は、長い歴史と伝統、文化の中から生まれてきたものであり、それらとの関係において考察しない限り十全に理解することはできませんし、今後の展開を予測することも困難です。 8)他方、一国の教育制度は、他国の文化や制度に関係なく、あるいはその影響を受けることなく成立したものではありません。 9)それどころか、明治期であればあるいは戦後の一連の教育改革であれ、当時最も優れた制度と考えられた欧州や米国の教育をモデルに構想されたのです。 10)「グローバル化」が急速に進む現代の世界においては、教員や学生の国境を超えた移動が未曾有の速度で増加し、各国の教育制度は相互に影響を与えるようになりました。 11)従って、わが国の教育を理解するためにには、もはや日本という「閉じた」世界だけから見るのではなく、グローバルな視点から見ることも必要になっています。 12)また、経済成長と自由貿易促進を謳う経済開発協力機構(OECD)や経済統合を目指す欧州連合EU、さらには普遍性原則の下に教育に関する規範設定を行う国連教育科学文化機関(ユネスコ)も、教育の質保証などわが国を含む各國の教育のあり方に大きな影響力をを持つようになっています。 本講義は、こうした認識の下に、わが国の教育制度、あり方を論ずることにします。
到達目標	本講義の到達目標は、 1)明治期以降、とりわけ太平洋戦争後の2度にわたる教育改革(戦後の米国主導の一連の教育改革及び中曾根康弘総理主導による臨教審の教育改革)の理念、目標、改革の内容、それらの社会的、経済的、文化的背景を理解すること。 2)現代の教育制度(正規の学校教育機関であるいわゆる「(学校教育法)1条学校」だけでなく、専門学校、職業訓練機関、民間や地方自治体、大学などが行う多様な講座・セミナー・企業内教育などで包摂する)の多様な広がりとその背景を理解すること。 3)現代のわが国の教育が直面する課題(Challenge)と問題(Problem)を理解し、政府や教育機関が、課題にどう対応し、問題をどのように解決しようとしているかを理解すること。 4)教育のあり方においてわが国と際立った対照をなすフランスと対比しながら、わが国の教育のあり方を考えること。 5)主に経済協力開発機構(OECD)の統計・分析資料を用いつつ、わが国の教育が先進国の中でどのような位置にあるかを理解すること。 6)上記1~5を通じて、教育に限らず社会事象の分析に当たっては、自らの頭で考え、自らデータと事実を集めて分析し、自らの考えをまとめるという大学卒業生として基本的な知的習慣を身につけること。 7)併せて、自分の考えを論理的にまとめ、文章として表現する力の育成を目指します。
授業方法	講義と「グループ・ワーク」(GW、計6回)によって構成します。 ・講義は、学生からの質問やコメントを歓迎します。講義を聞きながら、疑問に思ったこと、よく理解できなかったことをメモするようにしてください。 ・GWは、所定のテーマについて、講師から簡単に「解説」(説明)を行った後、5~10名程度のグループに分かれて討議を60分行い、その結果をまとめ、1グループ5分程度で発表します。最後に講師が講評を行います。
毎回の授業の概要	毎回の講義の概要は次のとおりです。ただし、講義の進行の状況あるいはやむをえない事情により、多少の調整があります。 第1回 講師のプロフィール紹介、本講義の概要と狙い、グループ・ワークの進め方、成績評価の方法、欠席の場合の扱い、本講義受講に当たって受講生に求められる基本姿勢などについて説明します。受講生の関心や教育に関する意見を聴きます。その後、明治維新以降の教育政策と量的拡大の状況を俯瞰したあと、その特色・背景を考えます。第2回第二次大戦後の教育改革(憲法・教育基本法の制定、「複線型」から「単線型」教育制度への転換、6・3・3制学校教育システムの発足、「新制」大学の発足と高等教育の拡大などを俯瞰します。 第3回 1950~60年代の高度経済成長と教育の量的拡大を俯瞰した後、中央教育審議会(中教審)の昭和46年の「今後における学校教育の拡充整備に関する答申(46答申)」はじめ、1970年代の「量から質への転換」政策を検討します。第4回臨時教育審議会(臨教審1983~86年)の4次

にわたる答申の特徴を俯瞰します。臨教審答申の中心的思想となった「新自由主義」(教育の個別化・多様化、自由な競争、競争による優勝劣敗、官業から民業へ、消費者主権など)について考えます。

第5回 日本の学校教育が直面する問題「学力低下」、いじめ、不登校、高校中退、「モンスター・ペアレンツ」、校内暴力等の「学校病理」のこれまでの経営と現状と課題①として、我が国の高等教育がエリートからマス、そしてユニバーサル段階に拡大してきた過程を俯瞰します。

その上で、我が国の高等教育が抱える問題と課題を検証します。具体的には、「ガラパゴス化」したと言われる大学教育のあり方や「勉強しない大学生」「内向きになった大学生」などの問題を検証します。第7回高等教育の現状と課題②として、高等教育市場の縮小と公的財政支援の減少、20年間で250の大学が新設される中での競争的環境の激化、規制緩和と社会的説明責任の強化、教育の質「保証」を求める声の高まり、「社会人基礎力」と「グローバル人材育成」の要請といった大学を取り巻く環境の激変下で、政府や大学が何をすべきかを考えます。第8回高等教育の現状と課題③として、米国、英国、フランスの高等教育の現状と課題を俯瞰し、我が国の高等教育と対比する中で、わが国の高等教育の特徴と課題を考えます。第9回先進工業国との「政策フォーラム」、「世界的シンク・タンク」としての経済協力開発機構(OECD)、国際条約などの規範設定機関としての国連教育科学文化機関(UNESCO)それぞれの、教育に関する目標・理念・政策・活動、加盟国に与える影響を俯瞰します。

教育理念としては、「リカレント教育」「恒久教育」「生涯学習」などを取り上げ、活動としてはOECDの「政策レビュー」、PISAとAHELOなどの学習成果測定の試みを取り上げます。第10回 第1回GW、テーマ「いじめ克服のために何が必要か?」(「正統」と「異端」、コンフリクト)

第11回 第2回GW、テーマ「義務教育における飛び級、落第の是非」

第12回 第3回GW、テーマ「大学は若者だけのためのものか?」(大学の役割とは?、大学を支えているのは誰? 欧米の大学では?)

第13回 第4回GW、テーマ「『勉強しない大学生』をどうやって『勉強する大学生』に変えていくか?」(社会、企業は「勉強する大学生」を求めているか? 教員は、教育の「プロ」か?)

第14回 13回の講義でカバーしきれなかった課題やさらに深く知りたいテーマについて、受講生の希望を聞きながら講義と質疑応答を行います。(予備日)

第15回 期末試験

成績評価方法	14回の講義とGW出席、期末試験、GW4回にかかるレポート提出を成績評価の条件とします。毎講義出欠をチェックし、2回以上欠席の場合は、GWレポート提出、期末試験の成績如何に拘わらず、「不可」とします。病気、就職活動によるやむを得ない欠席については、医師の診断書またはキャリア・オフィスの証明書を添えて、申し出てください。欠席した講義1回に限し、1テーマを個別に与えますので、GWレポートに準じたレポート提出によって出席扱いとします。(ただし、3回まで)						
学生への要望事項	出席票の「コメント」欄に、講義について意見や感想、疑問、改善してほしい点などを自由に記入して下さい。 日ごろから、教育に関する新聞記事や報道、論説を、関心を持ってフォローして下さい。						
テキスト備考	文部科学省「文部科学白書」各年版( <a href="http://www.mext.go.jp/">http://www.mext.go.jp/</a> )						
テキスト(授業を履修する上で、購入が必須となる書物)							
参考文献備考							
参考文献(図書、視聴覚資料)*ライブラリーリザーブコーナーに設置	書名*	近代化と教育					ISBN13桁*
	著者名*	永井道雄 著	出版社	東京大学出版会	出版年	1969年	版・シリーズ・巻
	注釈	明治維新から1960年代の高度経済成長期までの教育の発展と近代化の過程を検証した古典的名著。					
	書名*	日本の大学 イギリスの大学					ISBN13桁*
	著者名*	刈谷剛彦	出版社		出版年		版・シリーズ・巻
	注釈	日本の大学の在り方を、英国の大学と比較しながら考えた興味深い観察記。					
参考文献(雑誌、年鑑白書等)	書名*	高学歴社会の大学—エリートからマスへ—					ISBN13桁*
	著者名*	マーチン・トロワ、天野郁夫・喜多村和之 訳	出版社	東京大学出版会	出版年	1976	版・シリーズ・巻
	注釈						
	書名*	試験の社会史—近代日本の試験・教育・社会					ISBN13桁*
	著者名*	天野郁夫	出版社	東京大学出版会	出版年	1983	版・シリーズ・巻
	注釈						
備考	書名*	かわる社会かわる教育：成熟化日本の学習社会像					ISBN13桁*
	著者名*	天野郁夫	出版社	有信堂高文社	出版年	1989年	版・シリーズ・巻
	注釈						

担当教員研究 室電話番号	
担当教員 E-mailアドレス	<a href="mailto:kokusaihaanalyst@yahoo.co.jp">kokusaihaanalyst@yahoo.co.jp</a>
E-Book およ び 関連ページ	1. <a href="#">文部科学省ホームページ</a>